

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400179		
法人名	協栄興産株式会社		
事業所名	ふれあいの家 黄金		
所在地	北九州市小倉北区黄金1丁目9番12号		
自己評価作成日	平成26年10月26日	評価結果確定日	平成27年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様がご本人らしく生活できるように、介助・支援しています。いつも笑顔で過ごして頂けるように工夫して、日々の勤務に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの家黄金」は黄金市場からも近く、アクセスのよい立地にあり、地域資源を活用して運営される小規模多機能と併設型の2ユニットグループホームである。開設から2年半が経ち地域との関わりも増えて、黄金市場の商店とも顔なじみになり挨拶を交わしたり、地域からの相談に来られることも増え、施設の周知も進んできている。併設の小規模多機能の利用者とも相互に交流し、おやつと一緒に食べたりレクをしたりと一体的な運営がなされる。本人らしく過ごせるように個別ケアにも力を入れ、カラオケに行ったり、通院時に外食を楽しんだり、それぞれの方が好きな事や、物を楽しんでもらっている。法人も県内の各所で福祉サービスを展開し、職員も自主性をもって勉強会を運営したり、キャリアアップやスキルアップの場を持っている。病院が近いことからきめ細かな医療ケアも行われており、今後も地域とともに発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員一人一人が、事業所の理念をしっかり把握した上で、実践しております。	グループホーム独自の理念と法人理念があり、2階の事務所とエレベーターホールに掲示している他、職員一人ひとりに配られるマニュアルにも記載される。理念を元にして半年に一度の職員の目標設定で管理者と話して毎月の評価と施設目標の達成を管理している。今年は「スタッフ一丸となって入居者の思いを把握して介護につなげること」を目標に実践している。	職員によって理念の共有状況や、施設目標の共有にばらつきがあるので、目標や理念の掲示方法や共有の方法を検討してはどうだろうか。ミーティング時の唱和や名札裏の掲示など、繰り返し共有されることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流として、市場での買い物や、散歩で近隣の公園や市民センター等に出掛け、地域の方々とのふれあいを大事にしております。一度に全入居者を外出に連れて行くのは不可能ですので、①フロア②フロア交互に外出する様努めております。	近隣の黄金市場での買い物にも良く行き顔なじみになっている。自治会にも加入して情報をもらうが自治活動への参加にはまだ至っていない。日常的に公民館に行くことも多く、挨拶を交わして周知され、相談を受けることも増えた。敬老会の際には商店から祝いの品も頂いた。	1階の交流スペースの活用によって、地域住民などが訪れやすいように開放してはどうだろうか。また年末の餅つきに招いたり、振る舞ったりして共同の催しなども計画されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の代表の方々に、介護の相談等あれば、声を掛けて下さる様伝えております。今現在は相談等ありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題で、地域との交流を深めた方が良いと言う話がありました。地域との交流として、近隣施設(市場・公園・市民センター)に出掛ける機会を増やしました。	2ヶ月毎に併設の小規模多機能と合同で開かれ、町内会長、民生委員、地域包括などから参加される。会議で町内会からの情報や案内をもらったり、防犯に関するアドバイスを頂くこともあった。毎月発行の「ふれあい通信」によって家族にも日程の案内や参加を促すが、まだ参加には至っていない。議事録はエレベーターホールにおいて閲覧公開している。次回は避難訓練との同日開催を計画している。	議事録と配布資料と一緒に保管、公開することで詳細情報を知らせてはどうだろうか。また、家族参加を増やすために、行事との同日開催や、参加しやすい日程の相談などがなされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所との連携についてですが、入居相談等承っております。	担当区とのやりとりで空き情報の照会を受けて利用に至ったケースもある。主に電話でのやりとりで、対面での交流機会は少ないが、介護申請時には窓口で訪問している。市役所とのやりとりは本部を通してすることが多い。季刊誌の「ふれあいだより」は毎号郵送にて報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。全職員皆、指定基準を理解しております。	施設内のエレベーターでの移動は自由で、玄関の施錠もない。徘徊癖のある方も無理に引き止めず見守りや付き添いで対応する。入り口にはセンサーで対応しているが、今までに身体拘束の例もなかった。法人全体での身体拘束廃止委員会が3ヶ月に1回あり、全体研修とともに内部伝達もしている。グループ内での事例検討などを通してスピーチロックなどにも注意喚起している。	

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルを職員全員持っており、入社時にマニュアルで学ぶ機会があります。虐待等、見過ごされる事無いよう、職員同士の報告・連絡・相談を常日頃から行っております。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護マニュアルにて学ぶ機会があります。権利擁護が必要な場合は、関係者と密に連絡を取り合いできる体制にあります。	配布マニュアルに記載しており、各職員の理解を進めている。以前は制度利用者もいたが、いまは居ない。研修でも事業所内で周知しており入居時に支援して利用に至ったケースもあった。必要時は外部の関係機関とも連携し、所内に資料やパンフレットも準備されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ふれあい会本部長も同席し、重要事項説明書等説明しております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っております。アンケートで指摘された事柄は真摯に受け止め、対応を全職員で検討し、即座に運営に反映出来る様努めております。	法人が管理して行う、全家族へのアンケートがあり、集計して結果は話し合っ対応し文書での報告も行っている。普段は面会時に聞き取ることが多いが、毎月の「ふれあい通信」や電話報告によって、面会の少ない方ともコミュニケーションを図っている。報告書によって外部評価結果なども毎回お知らせしている。	家族アンケートや「ふれあい通信」によってきめ細かい意見の抽出や報告が行われているが、対面でのコミュニケーションの機会として、行事の際に参加の呼びかけを行ったり、来て貰う機会を増やすための検討がなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、全職員からの意見を聞いております。	毎月のミーティングがあり、基本的には全員が参加し、出来ない場合も意見を伝達し、議事録で情報共有している。意見も上げやすく、入居者他に対してのケアの改善などちょっとしたことでも話し合っ、日頃からも申し送りなどで提案している。個人目標管理や、個別面談によって意見を伝える機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員には、自己目標を決め、期間が終わると管理者が評価しております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等関係なく採用しております。	法人のキャリアアッププランがあり、スキル向上につなげている。男女のバランスもよく、20～60歳代までの職員が働き、無資格で入ってから資格を取得する職員も居た。シフト調整も協力しあい、普段もレクが得意な人や、調理専門職員など、それぞれの能力を活かして職務についている。	外部研修への案内や参加が一部に留まっていたので、全体のスキルアップのために、案内や参加機会の向上が行われたり、勤務と休憩のメリハリがつけられることにも期待したい。

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護マニュアルで学びました。	新人の入職時の研修や、管理者の実践者研修によって人権に関して学んでいる。身体拘束廃止や虐待防止、認知症高齢者の理解などについては毎年定期的に研修は開かれてもいる。	事業所としての人権教育や啓発活動として外部研修の参加や、人権関連団体の資料や講師派遣等を検討されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人と話す機会を設け、各職員の力量を把握しています。社内研修に参加するよう努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあい会内部での交流はありますが、他社との交流はありません。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の一人一人の声に耳を傾け、不安を取り除ける様声掛けしております。良い関係を築ける様、信頼関係の構築をしっかりと行っております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、家族と話し合い、要望を聞き、今後とも良い関係を継続する事が出来る様努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員が目配り、気配りをし、「その方が必要としている事は何か？」を考察し、支援しております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①フロア②フロア共に、生活リハビリ等、全て職員が行うのではなく、入居者が出来る事は入居者にして頂ける様工夫しています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外出し、外食等楽しめる入居者、病院受診を家族が同行される事もあり、家族と入居者の関係を大事にしております。		

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑近辺に住まわれていた入居者は、近隣施設へ散歩や買い物等楽しまれています。	個別ケアによって好きな歌を楽しみにカラオケボックスに連れて行ったり、居室から見えるモノレールに乗りに行ったこともあった。近くの黄金市場での買い物も商店と顔なじみになって挨拶も交わしている。知人が訪れる方もおり、家族と協力して連れだしてもらったり、一時帰宅や外泊も行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①フロアでは、精神的疾患で多動の方を嫌がる他入居者が居ます。職員が入り傾聴声掛けを行い良い方向へのコミュニケーションを取っております。②フロアではやきもちを焼く様な事が頻繁に起こっており、検討策を考えております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①フロアでは退去された方々とのやりとりはありません。②フロアでは退去後、家族からの挨拶や、現状等の連絡を頂きました。今後も相談等受けて行きたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①フロア②フロア共に、各入居者の思いを把握する様努めています。本人の希望に添える様努力しております。	入居時に家族と話し合っアセスメントを行い、面会の度にも聞き取っている。センター方式の様式を取り入れた独自様式のシートを使い、ユニットごとの計画作成担当者が携わっている。意思疎通が難しい人とは家族からの情報や日頃の様子からも汲み取っており、見直しは半年ごとに、現場担当者の意見も聞きながら行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全入居者の生活歴を把握するよう努めています。独居であった方等は日々の傾聴から今までの生活歴を模索するようしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全入居者は、毎朝バイタル測定を行っております。健康状態を把握する様努めております。異常があった際は、管理者・主任に報告し対応策を指示し対応します。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全入居者、モニタリングを行っております。家族の意向や本人の要望等反映出来る様努めております。	カンファレンスは職員全員で行い、毎月のミーティング時に両ユニットで入居者の近況を話し合っている。毎日のケアプラン実施確認と月のモニタリングは担当職員が担い、プランの見直しは3~6ヶ月ごとに担当者会議と一緒に、家族からの意見も聞き取りながら行っている。支援経過も色分けして項目ごとに確認しやすいようにし、全体でもプラン把握を進めている。	担当者会議の際に、医師や理学療法士などの他職種からの意見照会や、会議参加なども検討して、より発展的なチームケアに取り組まれてはどうだろうか。

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全入居者の日々の様子は介護記録に記入しております。 勤務を始める際、申し送りを行い、情報共有を行っております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望等、柔軟な支援を行えるよう努めております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設(市場等)に出掛け、顔なじみの関係を作れる様努力しております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は定期的にかかりつけ医に受診しております。家族の意向で変更を希望された場合は診断書を書いて頂き、新規の病院へ通院出来る様対応しております。	希望するかかりつけ医を継続できるが、事業所近隣に病院があり、そこに変える方も多い。緊急時などは往診も出来るがすぐにお連れして通院支援する事もし易い。目の前にあることで事業所支援も出来て安心されている。他科受診も支援しており、記録ノートなどで情報共有して報告も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	場合によっては、かかりつけ医が来苑し、診療して下さる事が、相談等受けて下さいます。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、頻回に病院に行く様心掛けております。情報交換として、カンファレンスを開いて頂ける様努め、関係作りしております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合っております。入居契約の際も話しておりますが、重度化の傾向が表れてきた際は、家族とお話し、今後の方針を決めたいと思います。	今までに看取った方は居ないが、希望する方がいれば出来る限りのことは行う方針である。提携医との関係もあり、どこまでできるかを検討しており、近隣病院をかかりつけ医とする方への協力体制も構築中である。	

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は出来る職員、出来ない職員限られていると思います。 今後訓練が必要だと思います。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との協力依頼をしております。 避難経路や、一番近くの避難場所等把握しております。	運営推進会議で地域の町内会長や民生委員の方に避難時の見守り体制の協力をお願いした。訓練は施設全体で年2回行い、内1回は消防署に立ち会ってもらって総合訓練、夜間想定訓練もしている。連絡網にも町内会を載せて、地域への参加案内もしているが、参加には至っていない。次回は訓練を運営推進会議と同日開催する予定にしている。	地域には緊急時の協力体制を依頼しているが、引き続き呼びかけて、訓練参加がなされることにも期待したい。また、備蓄物の確保を進めているとのことなので、実際に準備されることも望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者の方々に対し常日頃から尊重する声掛けや対応を行っております。	日頃の声掛けをお互いに注意したり、管理者からも指導している。申し送りやミーティングでも対応を共有、徹底して改善にもつながっている。トイレ誘導の声掛けなども小声で周囲に配慮しており、直近では毎月の定期研修の中で接遇に関してを取り上げた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	制限がある声掛け等を行わず、入居者の自由な決定を促すような声掛けを行っております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の場であるので、希望に沿って生活して頂いております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の着たい服等、その人らしく生活して頂ける様支援しております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリで、入居者様も参加して頂ける様な工夫をしております。(危険を共わない範囲)	調理専任のスタッフがおり、主菜など手間のかかる料理を受持ち、それ以外は職員も調理している。30品目の食材が1日の食事にバランスよく入れ込まれ、メニューはその日の様子で話し合っ決めていく。買い物や皿洗い、下ごしらえなど入居者にも手伝ってもらい、職員も同じものを同じ時間に一緒に食べている。誕生日や行事食などの変化も持たせて食事を楽しんでもらっている。	

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の水分摂取量や毎食の食事を把握する為に、水分摂取表や食事を記入出来る欄を設け把握出来る様努めております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂いております。介助が必要な方は誘導を行い、職員が口腔ケアを支援しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は自立している方は自力にて行かれます。一部排泄の訴えにて行かれます。他に排泄の訴え等一切無い方に関しては、時間おきに誘導し排泄または、パットの交換を行っております。	排泄チェック表を全員に使用し、自立した方には後から確認したり、聞いたりして管理している。日中はトイレ排泄を基本として、必要なときはポータブルトイレなども利用している。尿便意の無い方にも誘導をタイミングよく働きかけて、パットなどの利用も状況に合わせた提案を行っている。職員も気づいた時に申し送りなどで意見を出して、改善につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、体操に参加するよう促しております。更に、各入居者様に応じた対応策を行っております。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっています。13時頃～16時頃までとしておりますが、各入居者の希望に添える様支援しております。	三方向介助が出来る浴槽が設置され、空調も完備されている。入浴日は概ね1日おきで、週3～4日の屋から提供している。拒まれる方にも無理にはせず、自分のタイミングで働きかけ、必要であれば清拭や陰部洗浄で保清している。お湯は適宜貯め流して綺麗にし、入浴剤などを使うこともあった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者が安心して入眠出来る様、生活習慣を把握するよう努めております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用を把握しております。処方された薬は薬情をしっかりと確認しております。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握するよう努めております。役割などを与えられる様支援しております。		

H26自己・外部評価表(ふれあいの家黄金)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出として近隣の公園へ散歩等行っております。 他にはレクリエーションにて外出しております。各入居者の希望を把握し、どこに行けば皆が楽しめるか考察しております。	それぞれ偏りのないよう、日々近隣の公園や黄金市場への散歩を楽しんでいる。レンタルビデオ屋で映画を借りて事業所で鑑賞することもあった。外出レクでも動物園や農事センター、花見などを楽しんでおり、少人数や個別ケアによっても様々なところへの外出を行っている。	全体や少人数での外出も楽しませられているが、家族との外出レクやボランティアとの協力によっても幅が広がってくるので、案内や参加につながる検討をされてはどうだろうか。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に関しては、本社で管理しております。お金を使う際は立替として使っております。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと訴えがあった際はして頂いております。手紙も同様です。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①フロア②フロア両りビングは落ち着いた雰囲気作りに努めております。季節の花等飾る事によって季節感を感じれる工夫を行っております。	施設の2階に位置し、中庭を中心に正対して各ユニットが配置されている。ホールに置かれたダイニングテーブルの好きな場所で入居者もくつろぎ、各所の壁には地元の画家の温かみのあるイラストが雰囲気作りに役だっている。廊下の幅員も広くゆとりがあり、ユニット同士を開放することで回廊式に歩行訓練などをする事も出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両りビングにソファを配置し、語らいの場を作ったりしております。入居者同士のコミュニケーションの場です。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全入居者が戸惑いなく生活できる場として、居心地良い環境作りを行っております。各居室はその方の馴染みの物を置いたり、使いやすい配置にしております。	介護ベッドが備えつけられ、各部屋の戸口に棚上収納もある。たんすや机、テレビなど自由に持ち込め、写真を貼ったり思い思いの部屋づくりをしている。窓からは隣の病院の庭園も望め借景が楽しめる。希望すれば畳にすることも可能で、布団で休むことも出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	両りビングは安全に生活が送れる様、手すり等設置し、見て分かるように「トイレ」等表示し、迷われる事無く過ごせる工夫をしております。 各居室前には表札を掛け迷われる事が無いよう工夫をしております。		